



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry : 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「ここからだの飢餓」に応える働きをしています。



日本国際飢餓対策機構

2013 No.272

3

飢餓対策 News

フィリピン台風支援の募金協力を

12 月にフィリピンを襲った、超大型台風の被災者の緊急支援を継続しています。ぜひご支援ください。募金は、郵便振替またはウェブサイトからのクレジット決済で、その際は「**フィリピン台風**」とご指定ください。

ウガンダ里子訪問ツアー参加者募集

期間：2013 年 8 月 23 日(金)～ 30 日(金)
費用：298,000 円
定員：10 名
活動地、ナマスンビ、キョガ、ミソンの 3 地域を訪問し、各地域で開催される「自立記念セレモニー」に参加予定。お問い合わせは、大阪・世界里親会まで。



書き損じはがきで国際協力をしましょう

年賀状などの「書き損じはがき」をお送りください。当機構では、切手と交換して、海外スタッフや支援者の方々への郵送物発送に用いさせて頂いています。お問い合わせは大阪事務所まで。

なお、書き損じはがきは、古いものでも構いません。日本郵便 (株) 発行で消印のないものに限りです。

【2012 年 1 ～ 12 月の集計報告】

- 書き損じはがき 3,393 枚 (146,308 円)
- 未使用切手 2,347 枚 (61,702 円)

ハンガーゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ チャイルド・サポーター (世界里親会) になりたいので説明書 (申込書) を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ JIFH (日本国際飢餓対策機構) サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 500 円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名： 男・女

〒

フリガナ 住所：

.....

(電話)

▼申込日： 年 月 日▼

FAX・072-920-2155

本deリンク
不要な本や
CD受付中

引越し・大掃除の際に見つかった不要な本や CD、ゲームなどを、是非愛知事務所へお送り下さい！



【本 de リンク 2012 年ご報告】

届けられた物：本 3741 冊
CD 969 枚 DVD 61 枚
ゲームソフト 74 本 ゲーム機 2 台
換金総額 173,131 円

2012 年も沢山の本や CD、ゲームソフトなどをお送りいただき、皆様の温かいご協力感謝致します。換金額はすべて、飢餓と貧困に苦しむ方々のために大切に用いさせて頂いています。

『自分ではなかなか処分できないので、ありがたいです。』『お役に立てたら嬉しいです。知人から預かったものと合せてお送りさせて頂きますね！』など励ましのお声も頂いています。これからもよろしくお願い致します。詳しいお問い合わせは、愛知事務所まで。

ハンガーゼロ・サポーター 2617 円。ぜひあなたのお知り合いにもお知らせください。



バングラデシュのセングラム村の女性グループの様子 (2013 年 2 月)

英語でいう servant (サーバント) は日本語に直訳すると使用人、召使いを意味します。最近企業経営の中でもサーバント・リーダーシップ (仕えるリーダーシップ) という考え方が浸透しているそうです。リーダーのために部下がいるのではなく、部下を支えるためにリーダーがいるという考え方です。ちなみに「神の召使いのなかの召使い」とはローマ法王を表すそうです。

先日、訪問したバングラデシュのダッカから西へ 200km ほど行ったクシュティアのセングラム村、そこで FH バングラデシュが行っている女性たちのグループ活動を見学しました。このグループが始められて 2

年が経過し、彼女たちがグループとして貯蓄しているお金は約 10 万円になったそうです。毎週様々な学びをしていますが、今日のテーマは「仕えること」。聖書の「5,000 人の給食」の箇所から学び、自分たちがどのように家庭で、地域で仕えていくことができるかを小グループに分かれて話し合い発表をしています。

バングラデシュは大きく変化をしています。衣服の生産が中国に次いで世界第 2 位。私たちが身につけているもの (たとえばジーンズ) にもたくさんのバングラデシュ製のものがあります。また自国の天然ガスによって電力供給は安定し始めています。しかしインド文化圏の中にあるカー

スト (身分) 制度やダウリー (持参金) 制度は変わらないままバングラデシュにも残っています。訪問したお家でも女の子しか産めないという理由で離婚されそうになっている女性がいまいました。またカーストゆえに道路清掃人や靴磨きしかできない方々も数多く見かけます。

こういった文化背景の中で「仕えること」を考えるのは、日本に住んでいる者がイメージするよりももっと困難であると思います。しかし、ここに集まる女性たちの発言は「争いがある人々のなかで平和をもたらす者になりたい」「病を患っている人をチームでロー

ーションで助けていく」「地域の年配者の面倒を特に見ていきたいし、実際にそれを行っている」「自分たちが仕える者になって組織を作り、よりよい村にしていきたい」と話し合ったことを分かち合ってくれたのです。学びや活動を通して着実に彼女たちの考え方や行動に変化が起こっています。

彼女たちに「貯蓄したお金で何がしたいですか」と敢えて意地悪く質問しました。きっと家を綺麗にしたいとか商売がしたいと答えるだろうと思っていたからです。でも一人の女性がこう言いました。「自分たちよりもっと困っている人々のために使いたい」と。彼女たちこそ真のサーバントであることを教えられました。私から始める、世界が変わる。

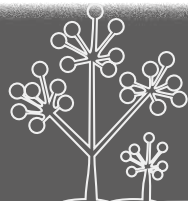
日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

貧困の中で“仕える”女性たち

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

■発行者 岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	TEL 101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
いいね大募集 Webサイトアドレス http://www.jifh.org/ eメールアドレス general@jifh.org フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero	愛知	TEL 466-0064 名古屋市中区和鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで	広島	TEL 730-0036 広島市中区袋町 4-8 CLC ブックス 2F TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
身近に便利になりました ●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構 ●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ	沖縄	TEL 901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540
	東北	TEL 980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2 階 E TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所 (八尾市・生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業のご協力を下さっています。



依存ではなく自立へ

始まった地域変革の足音

ニジェールで開かれたセミナーの実



ジャック師 (昨年のセミナーで)

2012年7月、当機構はニジェールでの食糧支援の現地パートナー、エスプリ神学校との協力でセミナーを開催しました。ニアメとマラディで行われたセミナーにはニジェール各地からコミュニティーリーダー65人が集まって、聖書に基づいた地域変革について学び、話し合う時を持ちました。

その中で当機構の海外プロジェクトアドバイザーのランディ・ホーグ師は受講者同士のディスカッションを織り交ぜながら、“地域が飢餓・貧困という困難に立ち向かうには、リーダー、家族、教会が核となる共同体を形成することが必要”と説きました。参加者は学んだことを自分のコミュニティーに持ち帰り、それぞれの地域の変革のために活動を始めています。

エスプリ神学校の代表で現地教会のリーダー、ジャック・カンニデ師からその様子の報告がきました。

【ニアメ】

- 地域の住民が参加して、ニジェール川周辺に自生する水草から肥料を作り、ニアメ近郊の農家に提供しました。



水草を活用した肥料作り



ニジェールニアメの畑

【アオレ村】

セミナーに参加したブバカ牧師を中心として以下の活動が進められています。

- 医薬品の倉庫を設置、薬剤師でもある牧師夫人が地域全体から相談にくる人々の必要に応じています。
- 村で開かれる税金の相談のために椅子を50脚貸し出しています。

【ティビリ・ドゥーチ地区】

- リマン牧師夫人が地域の人々に薪を販売しています。



ソーラーパネルで小規模発電



薪の販売

【マイロ地区】

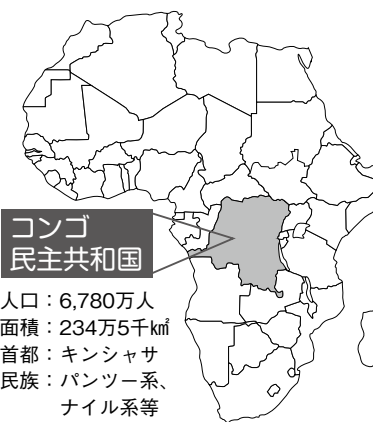
ニアメでのセミナーに参加したヤコブ牧師を中心として以下の活動が進められています。

- ソーラーパネル二枚を活用した小規模な発電を始めました。
- 地域の人々のための識字教育センター建設に使われるレンガを3,000-5,000個生産しました。
- 牧草から作られた肥料を使い、畑でレタスとトマトを育てています。

昨今、日本でも報道されているとおり、西アフリカではニジェールの隣国マリでの混乱が続いており、ニジェールにも多数の難民が流入するなど大きな影響を受けています。しかし社会の混乱と長引く食糧不足にもかかわらず、リーダーを中心に人々は着実に自立に向けた歩みを始めています。

日本国際飢餓対策機構はこのような現地リーダーの働きを続けて応援していきます。引き続きハンガーゼロ・アフリカの働きにご支援・ご協力をお願いいたします。

●ハンガーゼロ・サポーターのお申し込みは、最終頁の申込み欄又はウェブサイトから。クレジットも利用可能です。



コンゴ民主共和国

人口: 6,780万人
面積: 234万5千km²
首都: キンシャサ
民族: パンツール系、
ナイル系等
言語: フランス語 (公用)
キコンゴ語他3言語



ジェローム・カセバ (イベント会場で)

当機構東京事務所のスタッフ、ジェローム・カセバはコンゴ南部の牧師家庭で育ち、現在国際基督教大学 (ICU) 大学院で学んでいます。彼を通して、日本のマスコミでは殆ど伝えられないコンゴの人々、特に女性と子どもの窮状を知ることができました。当機構では今年7月に現地でリーダーを対象にしたセミナーを開催し、これからの支援の基礎づくりを始めます。

紛争により厳しい困難に直面しているコンゴの人々

危険と食料・水不足、人権侵害、教育機会も奪われて

この国は1994年に隣国ルワンダで行われた大量虐殺に対する報復を恐れたフツ族の軍隊が国境を越えて逃げてきて以来、東部が紛争に巻き込まれてきました。1997年にはルワンダ、ウガンダの支援を受けた反政府勢力が首都キンシャサを制圧、国名をザイルからコンゴ民主共和国に改称しましたが、1998年には、ウガンダ、ルワンダが反政府、ジンバブエ、アンゴラ、ナミビアが政府側につきコンゴ全域が戦場と化しました。この紛争とその余波によって500万人以上の人々が死亡するという、アフリカ全土でも最悪の紛争となりました。

ユニセフによるとコンゴ民主

共和国の国内難民の数は、2009年から2012年6月までに、推定220万人にのぼります。内戦は、地域の人々を悲惨な状況に陥れました。多くの男性が反政府武装勢力M23によって殺害あるいは拉致されていきました。また大多数の女性や子どもがこの内戦で死亡したと言われています。

傷つく女性と子どもたち

この戦争で最も犠牲になったのは女性や子どもたちで、多くが暴行を受けたり性的虐待を受けたりしました。しかし、世界の人々はコンゴの、特に東部での社会的、経済的問題についてあまり知らされていません。東コンゴにお



ける人々の生活は、国軍と反政府武装勢力M23との衝突によってますます困難になり、もはや耐え難い状況になっています。

極端な食糧と水不足、人権侵害、子どもへの教育の欠如、危険と貧困から逃れるために農村から人々が大量して脱出していることが、その状況を如実に表しています。これらすべての事が女性や子どもに計り知れない精神的な傷をもたらしていることは否めません。

南北キブ州における内戦を終結するために、コンゴ政府と反政府軍M23との間で和平交渉が持たれてはいますが、キブの危険な状況は変わらず、また地域の人々は非常に多くの支援を必要としています。

ここでも多くの人々が飢餓・貧困そして身の危険に苦しんでいます。ハンガーゼロ・アフリカに皆様のご協力をお願いいたします。



コンゴは2011年の人間開発指数が、世界187カ国中、187位の最貧国となっています

●「わたしから始める、世界が変わる」ハンガーゼロ・サポーターは1口 1,000円(月)から。あなたも始めて下さい。



仮設住宅に向いて被災者との交流を続ける地元のキリスト教会支援組織。この日は「餅つき」でした

温かい心に励まされて

東日本大震災から2年 復興への足取り少しずつ前へ

東日本大震災から3年目を迎えました。この2年間の皆さまの様々なサポートを心から感謝いたします。この間たくさんの出会いと涙や笑顔が被災各地で報告されています。

2011年は、津波によって多くのものを失われた方々のために、物資による支援と家屋の修繕を主体に活動させていただきました。2012年はその活動を続けながら仮設住宅でのコンサートなど、地域の教会や他団体と協力して被災された方々を励ますためのイベントもさせていただきました。震災から2年目になった昨年は、被災地の皆さまとより親密になることができたように思います。その関係が現在も続いていることは幸いです。

2013年元旦の地元紙やTV報道によりますと、被災自治体の具体的な復興計画（復興公営住宅建設や防潮堤の建設など）が実現されていく年となるようです。

新しい形での再生も

しかし被災された方々にとっては「やっとここまで来ることがで

きた」というのが、本当の気持ちでしょう。また同時に、被災された方々が前を向いて故郷を再生していくのだという強い意気込みも感じられます。

主産業である、漁業・農業・工業の再開が始まっています。被災者自らが作り販売を手掛ける工芸品やアクセサリ、仮設商店街で開店をする地元小売店、ボランティアを機に被災地に移住して共に復興を支えようとする若者たちなど、地元の方々と他地域から来られた方々が、一緒になって新しい地域を造り上げていこうとしています。しかしながら、福島は岩手・宮城とは異なります。日本国際飢餓対策機構は放射能に苦しむ



親善大使による心の癒しも継続



宮城県亘理町の漁師復興支援の様子（漁具支援等を継続）



引き続きご支援ください

福島の方々とどのようにして共に歩いていくかを考えながら、『ふくしまHOPEプロジェクト』との協力や、福島で支援活動をされている諸教会と連携して活動を続けていきます。

大きな被害を受けながら復興に向けて歩んでいる岩手・宮城・福島の人々の他にも、千葉や茨城など周辺の地域で被害を受けた方々がたくさんおられます。丸2年となる現在も、人手や経済的な支援がまだまだ必要です。

皆さまの温かい心がこれからも東日本大震災の被災地に届けられることを願っています。

（JIFH東北事務局 伊東 綾）



いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。（聖書）

ふくしまHOPEプロジェクト事務局長 朝岡 勝

「ふくしまのこどもとおとなに希望を」

今年の1月17日に、「その街のこども」という映画を観ました。これは阪神淡路大震災から15年目の2010年にNHKで放映されて反響を呼び、その後映画化された作品で、震災を実際に経験した男優、女優がメインキャストをつとめて話題になったものです。震災を幼い子どもの頃に経験した若い二人が、ふとしたきっかけで神戸の街に十数年ぶりにやって来て、16日から17日にかけて夜の街を歩き回りながら、ずっと心の内にしまい込んできた傷と向き合っていくストーリーで、深い余韻を残す佳作でした。

阪神の震災の年に生まれた子どもたちが18歳を迎える。このことの意味を思い巡らすとき、あらためて東日本大震災から3年目を迎える東北の子どもたちの未来を考えます。

引き裂かれた家庭

震災から3ヶ月後の2011年6月段階の文部科学省による統計では、今回の震災で犠牲となった子

どもたち（幼稚園児から高校生）の数は岩手県で死者82名、行方不明者35名、

宮城県で死者363名、行方不明者77名、福島県で71名、行方不明者19名で、死者・行方不明者をあわせると647名にのぼり、内訳を見ると幼稚園児が77名、小学生が199名、中学生が93名、高校生が147名となっています。これに幼児や保育園児、未就学児などを加えれば、その数はさらに増えていると思われます。さらに、震災で両親を失った孤児は上記の三県で209名、片方の親が亡くなった遺児の数は実に1,295名にのぼります。このように今回の震災では地震、津波そして原発事故によって多くの家庭が崩され、傷つけられ、引き裂かれ、^{うしろ}震われていったのです。

大人に対する気遣い…

子どもは日々成長します。屈託なく笑います。将来への不安などないかのように天真爛漫です。その日その日にエネルギーを使い切ります。大人たちもそういう子どもたちの姿に励まされ、癒され、希望を持ちます。けれども忘れてならないのは、子どもたちはそういう大人たちの期待を受け取って、屈託なく笑い天真爛漫に振る舞うという役割を引き受けて、大人に心配をかけまいとする、子どもなりの大人への気遣いがある

という現実です。

このことは、昨年夏以来、ふくしまの子どもたちの保養プログラムに関わる中で私自身が感じさせられていることの一つです。子どもは親の不安、心配、緊張を敏感に感じ取り、自分が不安の原因になっていると知って、親に心配をかけまいと明るく元気に振る舞っているという面があるのです。

福島第一原発事故によって引き起こされた放射能汚染と、それによる低線量被曝が及ぼす健康被害の影響を巡る問題は複雑です。大人たちは「ふくしまの子どもたちを守ろう」と必死になります。けれども「こども」だけが問題ではない。むしろ「おとな」の不安や恐れが解決されなければ、「こども」の安心も健やかな成長もないのです。

私たち「ふくしまHOPEプロジェクト」では、2月から「親と子のほっとタイム」というプログラムを始めました。保養キャンプで知り合ったお母さんたち同士がゆっくりと語り合い、学び合えるお茶の会です。親たちが励まし合い、不安を分かち合い、希望を見いだせる場所を作り出すこと。それも大切な働きなのです。「ふくしまのこどもとおとなに希望を」届けるために。

▲昨年12月末の保養プログラム、錦秋湖キャンプでの雪遊びの一幕

2013.3
No.272
5



平林佐知子さん

(大阪市)

〈その2〉



ムビル君と平林さん

バングラデシュのダス君の支援をしている間に、ウガンダのナマスンビでのワークキャンプに行く機会が与えられました。ナマスンビは支援が始まったばかりの地域で、日本の里親さんを待っているウガンダの子ども達に出会いました。そのとき、自分はダス君を支援しているから、友達や周りの人に里親になってもらおうと考えながら家庭訪問をしました。私からウガンダのことを聞いて友達や知り合いが何人も里親になってくれました。本当に感謝でした。しかしウガンダの子ども達のことを私の心にずっとありました。人に勧めて自分は？と。

姉と一緒にもう一人の里子

その時まで、ダス君の里親をし
てもう一人、なんて思いつきもし

なかったのですが、ウガンダの里親になろう…という気持ちが湧いてきたのです。それで姉と一緒に里親をすることにしました。

ありがとう！里子たち
里親になり幸せになりました



ソピーブ君

JIFHの大阪事務所に「ウガンダで会った、とっても気に懸かった2年生の男の子の里親になりたい」と、

聞いていた名前を連絡すると「その名前の子は見あたらないので代わりに小学2年生の男の子を紹介します」と返事がきて残念に思っていました。

ところが送られてきた写真を見て飛び上がりました。私が気になっていたその男の子だったので、あきらめかけていたのでとても嬉しかったです。私が聞いた名前と登録された名前に少し違いがあったようでした。こうして姉と一緒にムビル・スライマニ君の里親になりました。ムビル君の家庭はかなりの貧困家庭でした。兄弟がたくさんいる中で、ご両親はムビル君をぜひ学校に行かせたいと話しておられました。自分が会っ

たことのある子どもの里親になれるなんて、ものすごい喜びでした。

キャンプでムビル君と出会う

ムビル君に会いたくて次の年のウガンダワークキャンプにも参加し、その後ワークをする恵みとムビル君に会える恵みをもたらえる経験を3回もさせてもらっています。毎回ウガンダでムビル君とその両親、兄弟姉妹に会うことができ、自分にとってウガンダが大切な家族のいる国になりました。ダス君とムビル君の2人もの支援をさせてもらえる日々は、バングラデシュとウガンダを想っては私も頑張る元気がもらえる日々です。

ダス君が17歳になった時に、ダス君の地域の支援が終了しました。そして新たにカンボジアのソピーブ・ウン君5歳の里親になりました。現在、兵士になりたいソピーブ君7歳と、17歳になった医師になりたいムビル君の2人の里親としての恵みを、続けて貰っています。また、アリ君とダス君の写真を見ては、素敵な大人になって頑張っていますように、病気や事故にあっていませんようにと祈らせてもらっています。

中学生の時に見たJIFHのパンフレットに『里親になって子どもたちを幸せにしてあげてください』とありましたが、里親になって自分が幸せになりました。感謝です。この幸せをこれからも続けて経験していきたいと願っています。アリ君・ダス君・ムビル君・ソピーブ君ありがとう！

楽しみながらできる支援 手作り作品の仲間“POLOS”のみなさん

ポーロス



2012年5月から日本国際飢餓対策機構の協力団体、㈱キングダム・ビジネスに手作り作品を提供して協力してくださっている、片山紀子さん(写真⑥)、中原千春さんからお話をききました。

Q 協力を始めてくださったのはどのようなきっかけから？

片山：教会のバザー用に作った革のネックレスを見て、飢餓に苦しむ人の支援に役立てませんかといわれたのがきっかけです。

最初は私が作ったものを商品として売っていただくことに抵抗がありましたし、恥ずかしく感じることもありましたが、でも飢餓対策の活動を知るにつれ、感動して心をこめて創るとき、アイデアも知恵も神様が与えてくださることを体験するようになりました。次にはどんなものを作ろうか、腕をみがいてもっと良い物を作りたいといつも思っています。

中原：以前、テレビの特集で世界の飢餓の現状を見て、私にも何かできることがあればなあ、と考えていました。そんな時学校のPTAの役員会で片山さんと知り合い、彼女が身に着けている手作りの物が、飢餓・貧困に苦しむ人々の支援につながっているという話を伺って、とても興味を持ちました。もともと手仕事が好きでいろいろな物を作っては友達にプレゼントしたりしていたので、



それが今度は世界の遠い国の人々を助けることに貢献できるなんて、本当に嬉しいです。

Q ところで作品についている

“POLOS”というタグは？

片山：子どもたちも含めて家族で考えました。“POLOS”はギリシャ語で「口バの子」という意味です。イエス・キリストがエルサレムに入場される時、乗り物として取るに足りない口バの子を用いられたことから、私のような未熟な者を尊い働きのために用いて頂ける、という感謝と畏れをこめてつけました。作品についている“POLOS”のタグは、もう一人の仲間の、安藤麗子さんが作って

私から
始めます

支援者の取り組み

くれました。彼女は布小物やエコクラフト、木の作品などを提供してくれています。

Qこれからどのように活動していきたいと思っておられますか？

片山：仲間を増やしたいです。この活動を通して私自身が以前より

世界の飢餓に苦しんでいる人たちに関心を持つようになったし、他の人に飢餓の話が出来るようになりました。「募金箱ちょうだい！」といってくれた友達や、家



においてある募金箱に募金をして帰ってくれる人もいますよ。

中原：私が作ったものが誰かの役に立っていると思えることが、私自身の支えにもなっています。同じように協力してくださる方が増えるといいですね。これからもっと勉強して色々工夫をして作品も増やしていきたいと思っています。